

幸
才
又
邇
僞



幸
才

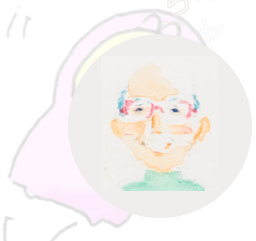
私たちは
あなたに光を観ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

マ～

今回の表紙について：節分、バレンタイン、
キオマ通信も愛の展開のラインを進化する。

週
信

キオマの窓から



春に気づくのは…紫に眠る木枝の芽吹

第23回 「ご飯を美味しくいただく」

ユソセンヤン ありがとうございます。

稲作は、光のグラハからのギフトです。

日本人は、古く縄文時代から、あるいはもっと以前から、その知識と技術を持ち、稲作を行い、米を主食としていました。

炊きたてのご飯の香りは、オーガスである、とアーユルヴェーダでも言うように、それは優しく、甘く、とても素敵な匂いです。

日本人は、このご飯を美味しく食べることに長けていますね。

炊きたての熱々のご飯に、味噌汁。
それに、ちょっとお新香と卵焼きでもあれば、完璧です。

握ったばかりの温かいおむすびは、何よりも御馳走です。
おむすびの中身の好みは人それぞれ。
でも、どんな中身も、ご飯を美味しく食べるためにあります。

日本人はカレーライスも大好きですね。
あれもルーを食べると言うより、ご飯を美味しく食べるためだし、添える福神漬けだってそうです。

ご飯を美味しく食べる。
それは、とても素敵なことだし、純粋な光の具現化を頂くことです。

お米を炊く時、

まず容器に精米した米を入れて、それから純粋な水をたっぷり注ぎ、それから心を鎮めてから、右手をそっと入れて、発声でも内声でも結構ですから、ギャーナを逆目、順目、順目で響かせます。その時、逆目の時は手を左回転、順目の時は右回転して研ぐのです。研ぎ終わったら水を捨てて、新しい純粋な水を注いで炊きます。とても美味しく炊けること請け合いです。

ぜひ、ご家庭でやってください。

ユソセンヤンありがとうございます



春に気づくのは…春のおむすびの具といえば、山菜の佃煮、ですかね！

第23回 農地&大三島事務所を見つけるということ①

ユソセナシマ ありがとうございます。

KIRでは、今治市内で純粋な稲と野菜を育てることができる、田んぼと畑を探しています。農地が決定したら、KIR今治事務所・コトハ今治PVPクリニックがある平野部、または山間部では、稲作りをメインに行い、個性豊かな島々が連なる島しょ部の大三島では、野菜作りをメインに行ってまいります。また大三島では農業活動の拠点となる事務所も探しています。

ナシマは農地や事務所を見つけるために、エリアを調査し、実際に足を運んで、どのように感じるのかを体験し、さまざまな人に会って話を聞き、情報をまとめていく、ということをしています。この活動を通じて、向き合い・苦しみ・気づく。ということを繰り返しています。

ポジティブ・ネガティブひっくり返して、様々な考えがひっきりなしに出てきますし、今までの経験による予測・妄想、この活動に伴い、KIRスタッフや大三島で出会った方々から言われたことを思い出しては、怒り、寂しさ、虚しさ、悲しみ、あきらめ、喜びなどなどの激しい感情が湧き上がってきたり、、、

本当は見たくもない、感じたくないことにイヤでも向き合うしかなく、苦しみまくっています。

イヤだけれど繰り返していくと、次はここに行ってみよう、この人に話を聞いてみよう。というような方法が浮かんできます。すると今度は限られた時間の中で、浮かんできた方法のどれを選択するのかについて悩む機会が増えてきています。とにかくスッキリとした爽快な感じにはならないなあ。とモヤモヤしています。

しかしごく稀に、コレしかない！と感ずることがあり、それをすぐに行動に移せたとき、農法部門の達成である“人々の内側を純粋さで満たし、喜びを生きる世界の実現”の中にあるようなことが起こることがあります。偶然による、たまたまの、いつもの日常のちょっとしたうれしいこと、ラッキー！と思うこととして流してしまいそうなことですが、振り返ると、今、もしかしてもものすごいことが起きたのでは？と感ずることがあります。

ユソセナシマ ありがとうございます。



第23回 聖護院大根の響きを感じ



聖護院に 根強き命の 冬の息。

聖護院大根を収穫するとき、その強力な効力を感じることができます。葉のみずみずしく茂る姿を見るだけで、心がすっきりとし、新しいことに挑戦する目覚めが湧いてきます。聖護院大根の丸く太った形は、自然の中にある力強さを象徴しています。この大根を食べれば、まるでその力が自分にも流れ込むような感覚になるでしょう。



第23回 大三島の集落

ユソセキマレ

ありがとうございます。

大三島も雪が最近ちらついています。とはいえ本州などと比べ積もることはありませんが、冷え込みが厳しいです。寒い時には風が強く、海上には白波が立つほどです。

上浦町は現在は今治市と合併しておりますが、明治期までは大三島は13の集落が村として成立していました。昭和30年には町村合併により、大三島町と上浦町に分かれました。上浦町は盛、井口、甘崎、瀬戸という集落で構成されていました。

自身が住んでいる井口の名前の由来は、戦国時代まで領主をつとめた生口氏に由来するといえます。

井口は上浦支所の所在地で、この集落は2本の川が形成した三角州平野が展開し、大三島の島内では最も水田面積の広い集落です。昔から清冽な飲料水が得られることから集落自体は土地が高く湿気が少ない山沿いと平野部に集中しています。

井口の集落は、北から里・森側・院生・坊・古戸・好味・戸板の7集落に分かれ、それぞれの集落の中に小組があり、井口全体では26の小组があります。上浦町の中でも開かれた立地で、井口に移住されている方も多くいます。統合が噂されていますが、小学校と中学校もあり、人口が多い地域になっています。

そして東側に開かれており、朝日が日の出からまもなく当たり、とても明るい集落です。

大山祇神社を訪れる時には必ず通る集落です。是非、訪れることがありましたらその明るさを感じて頂ければと思います。

ユソセキマレ

ありがとうございます。



第23回 「アヌシャーサナム」

ユソセシヲリ

ありがとうございます。

講座で知識を学んでいる皆さんは、それをどのように生かしておられますか？

ストラの知識でアヌシャーサナムというものがあります。そこには「教えを受け、復習する」「特定の状況下で教えの意味を理解する」「教えを実践に適應させ、学びを得る」「学び得たことを教える」という順を追った展開があります。

これをさせていただける機会として、ルートラーナ創造活動があります。

定期的に行われるミーティングで先生やメンバーのお話を聞くことで学び、それをスレッドなどの特定の状況で理解を深め、ミーティングなどでその教えを適應させてみることでまた学びを得、今度はそれを自身の活動として他者に伝えていく。

このようなサイクルを何度も何度も繰り返していくことでミコトを生き、マコトを成していくことができます。

もちろんルートラーナ創造活動以外にもそのようなことは可能かと思いますが、非常に純度を高く繰り返していくことができるという点で、素晴らしい機会です。

なにせよ、学んだ知識を自身の中で深く探求し、外に現そうとしていくことが大切です。

ユソセシヲリ

ありがとうございます。



第23回 人間からヒトへ

ユソセメセンありがとうございます

自身の純粋な思いに目覚める前、人間はカルマの中で反応を繰り返し生きています。

反応を生きているだけで向き合っていません。

やがて自身の反応に向き合い、苦しみ、手放す、を幾度も繰り返すことで、オン節の響きが整っていき、自身の内側に純粋な思いを感じるようになって来ます。

第1 オン節の響きが整い自身の純粋な思いを感じるようになったヒトは、それをミコトによって現わそうとします。

ユソセメセンありがとうございます。

※ 第1 オン節に乱れが生じている人を「人間」と呼びます

※ 第1 オン節、「ヒ」から「ト」までの響きがすべて整っている人を「ヒト」と呼びます



第23回 おむすびさまさま

ユソセロラン

ありがとうございます

キオマ食堂で毎日おむすびを握っているのですが、握るひとが違うとおむすびも違うのですよ

それこそ当たり前なのですが、そこがとてもおもしろいのです。時々イレギュラーでおむすび握り隊が助っ人に入ってくれたりする時、握り慣れてるとかの経験を超えて、実に様々なおむすびが並びます

角がないまるいおむすび

ほろっと崩れるやわらかいおむすび

指のかたちが残る飾り気のないおむすび

米粒をぎゅうぎゅう握り込んだ締まったおむすび

ふんわりと加減よく握られたかっこいいおむすび

温かみのあるでっぷりとしたおむすび

かたちなんて気にしない無造作に握られたおむすび

塩加減が効いてたり薄かったり、大きく見えたり小さく見えたり、梅が偏っていたりはみ出したり、お米のひと粒がくっきりしてたり潰れてたり、ひとつひとつみんな違っているのが一目瞭然で、楽しくなってきます

それらはまるで、なんだかとても握ったひとを現しているように感じられて、創造によってかたちとなるもの

すべて愛しい

そんなふうにする自身の反応ですら、

かけがえのないものと感じたりして

そんなこんなで握るおむすびは、これまでとちょっと違ってきています

見た目かたちにこだわりがなくなって、いびつさを整えたりしなくてもその現れ自体が光っていればヨシってことで！

ユソセロラン

ありがとうございます



第23回 その23

ユソセチラテ

ありがとうございます。

『「チケエ」が「チラテ」になったから、「チケカフェ」は「チラカフェ」になるんちゃうんか問題2023』というのが、一瞬だけ話題になったことがありました。

昨年9月末の祭祀で、日本の7次元の階層構造の具現化という達成を私たちが受け取った際、「地球も私たちも7次元を生きるようになりますので、当然7次元のミコトオンを使います」とンヤン先生からメッセージをいただき、自身は新潟から諏訪湖へ遠征した帰り、特急しおかぜに激しく揺られながらそのご投稿を目にし、「あー、ほなチケカフェもチラカフェになるんかなあ」とぼんやり思っていました。

いま自身は、誕生したばかりのK-PVTマスターのメンバーとして、他者の進化を支援する意図を持ち、進化の展開に関する知識を中心に学び、理解を深めています。

始めはちんぷんかんぷんだった、これまでの集大成とも言えるその知識について、テキストを片っ端から広げ、つぎはぎの一覧表を作ってはまた作り直し、モニターの方にご協力いただき、実際それらの知識を使って、自身にとってハイパー苦手な問診を繰り返させていただく中で、本当に少しずつ、更地の上に基礎を築いていくような感覚を覚え、伴走してくださるモニターのみなさんに、共に学び進もうとする仲間の存在に感謝する昨今です。今日はなんか真面目なのす。

チケカフェは、KIRメンバーで観た光の質を持っており、おそらくこれが原初の光の質であろうというものを観ていますが、現そうとしてまだ現せていない、向き合い、手放すを繰り返しながら、基本的に同化の光の質（知らんけど、たぶんアレかなあ…）を生きている段階、といえるでしょうか。

チケカフェが、そして自身が、進化の意図を持ち、今いる階層をしっかりと生き、他者に光を観ようとし続ける過程において、誰にも気づかれないうらいにひっそりと、名前が変わることもあるのかもしれないね。

続く。

ユソセチラテ

ありがとうございます。



春に気づくのは…朝の光に、鳥の声に、海の色に、夜空の星に

コトハを学び、ミコトを生きる

ナラユ

第20回 「他者に達成を観て、その人の進化を支援する」

ユソセナラユありがとうございます

皆さん、こんにちは。ナラユです。
今回は「コトハを学び、ミコトを生きる」の第20回です。

ルートラーナ創造活動グループのメンバー（とくに時間創造マスター）は、他者に達成を観て、その人の進化を支援する、ということをしようとしています。

「他者に達成を観て、その人の進化を支援する」と聞いたとき、ふと思いついたのは、あるジョーティッシュの専門家です。ジョーティッシュは、5000年以上の歴史があるインドの占星学であり、天体の影響から一人ひとりの特性や運命、将来の傾向を読み解き、個人や組織の性格、性質を解明し、将来を予測する技術であると言われています。

もうだいぶ前になりますが、ナラユもジョーティッシュのコンサルテーションを受けたことがあります。自分がこれから進もうとしている道はこれでよいのか、いつ試験に合格するのか、合格しないのか、ということを知りたかったからです。このようにジョーティッシュは、未来の予測のために受ける方も多いと思います。

しかし、ナラユのコンサルテーションを担当してくれたジョーティッシュの先生は少し違いました。ナラユは、いつ試験に合格するのか、それとも合格しないのかが知りたかったのですが、それについては一切答えてくれず、穏やかな口調で「大丈夫、大丈夫。やり続けなさい。」とだけ言いました。ナラユとしては、合格時期を知って安心したかったですし、ダメならダメで受験そのものをやめたいと思っていたため、先生の答えには少し困りました。今思うと、ナラユは進化の苦しみから逃れようとしていたのかもしれませんが、しかし、先生は、達成を観たうえで適切なアドバイスをしてくださったのだと思います。もし先生が合格時期を予測して伝えていたら、ナラユは受験をやめていたかもしれませんし、あるいは、その予測に期待してしまい、成長できなかったかもしれません。結局、先生のおかげで数年苦しみと向き合うことになりましたが、先生のシンプルなひと言は、合格するまでずっと支えになっていました。

他者に達成を観て、その人の進化を支援するとは、このようなことなのだと思います。

ナラユにはジョーティッシュの知識はありませんが、コトハには、他者の達成を観て、その人の進化を支援するための知識と技術があります。日々知識を学び、鍛錬し、他者の進化の支援ができるようになっていきたいと思っています。

ユソセナラユありがとうございます



春に気づくのは…ウグイスの鳴き声

第23回 このごろの今治事務所

ユソセキリヲ ありがとうございます

このごろのKIR、前号から引き続き、今治農地探しのリサーチに出かけています。前回からの変化は、KIRメンバー全員が、毎日かわりばんこにリサーチに同行するようになったこと。よいな、と思える場所が次々と現れてきて、今治農地が見つかる日は近いかもしれません。あることがキッカケで、この農地探しが光のお米や光の野菜づくりにつながって、それが光の食事づくりにつながっていき、そうして光の世界が作られていく、という実感を強く持てるようになってきて、今はなんだか宝探しをしている気分です。ルートラーナの仲間たちが自宅で育てたベランダ米が種となって、今治畑を金色に染める日が、いよいよ近づいてきたのですね。

「今治農地や大三島開拓、それだけのことを、農業チームだけでできると思いますか？」仲間にもう問われたあの日から、少しは成長できているのかな。大切なことはいつも、そのときはわからない。でも誰かが大切なことを教えてくれようとするとき、わからなくても、その言葉は記憶に残り続けるものだったりします。

「あなたは実習の体験も良いからサマディはすぐ上がると思うけど、それじゃダメだと思うんだ」これは2年に渡る、とある講座の指導で言われた言葉で、そのときは理解できませんでしたが、そのあとルートラーナ活動が始まって、その後、何度も思い出すことになりました。活動が辛くなる時、その言葉がよみがえり「そうか、だから今はこれをしないと仕方ない」と、諦めにも似た心境で、活動を続けることができるのです。

その講座は、やむを得ない事情があり、一年で退学し、その翌年に再入学して、もうすぐ終了。入学前から比べて、ずいぶん強くなっていることに気づきます。最初は泣いてばかりいたけど、そのうち怒りがわいたり、憎んだり、悲しんだり、恐怖がわいたり、様々な感情に振り回され、いろいろやらかしたりして。そういった黒歴史ともいえる出来事に対して、なぜか感謝の気持ちがあふれてきたナユアのハの始まりの今日です。

2週間後のモタウのクの新月の日にお目にかかれますよう。本号も最後までお読みくださり、ありがとうございます。

ユソセキリヲ ありがとうございます



海辺の農地候補地で見つけたあじさい。蝶みたい



マ～のLINEスタンプで 指先から欣びを広げよう

♡ 絶賛発売中 ♡

コトハで「マ」は、真実、開く、明らかにする、という知識を現すオンです。

光の生命体であるマ～星人は、いつも心を開き、自身の内側にある欣び（よろこび）という真実を現しています。

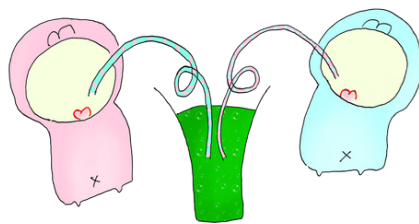
マ～には「嬉しい」と、「とても嬉しい」の2つの感情しかありません。いつも無邪気に、自身の欣びを「マ～、マ～」言いながら、それを現し、明らかにしています。

マ～たちは、この地球上の至る所にいます。誰の心の中にも、そして外の世界にもです。

そんなマ～たちが、とっても素敵なlineスタンプとなりました。

よろしければマ～と一緒に、ご自身の欣びを、この世界に広げてみてください（マ～の右横のQRコードからどうぞ！）

ちゅ～ちゅ～マ～



[いつだって欣びがいっぱい♡マ～スタンプ1]

https://line.me/S/sticker/24538084/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail

[いつだって欣びがいっぱい♡マ～スタンプ②]

<https://line.me/S/sticker/24495397/>

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/)

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail)



KoToHa *Integral Research*